人形芝居

出征・戰場

附屬幼稚園　菊池ふじの

第一場　千人針

背景―停車場の廣場

千人針はよく驛の廣場で見受けるので驛の背景を使つた。併し街の通りでも、四ツ角でもよい。こゝに立つて、少女が千人針をして貰つてゐる。この人物の前を、後ろを老幼男女大勢の人が通り過ぎてゐると尙更よい。

人物＝少　女（十三四歲位）―千人針をして貰つてる人。
　　女學生
　　奧　樣
　　老　婆
　　其の他多くの人

道具＝千人針の布、針、絲、洋傘など。

千人針のしかけたのを持つて、女兒立つてゐる。

―― 幕あく ――

（千人針布を持ちあげて見まわしながら女兒獨白）

少女　今朝からこゝでして頂いたので大部出來たわ、お兄さんが出征なさるまであと三日しかない。どうかして皆さんにして頂いて、お兄さんのお立ちの時にはどうしたつて持つて行つていたゞくやうにしなければならない。この千人針の中には、千人もの大勢の人の魂が籠つてゐるので、これをお腹にしつかりと卷いておくと敵の鐵砲丸が當らないのださうだから、お兄さんには是非差し上げなければならない。

向ふからまた女學生さんが來た。ひとつお願して、していたゞきませう。

（來合はせた女學生に向かひ）

ごうぞお願ひいたします。

女學生　えゝ、どなたが御出征になるの？

少女　お家のお兄さん

女學生　そう、それは大變ね　（し終へる）

少女　有り難うございます。

（洋傘を持つた奧樣風の人通りかゝる）

少女　お願ひ致します

奧樣　ハイ、どうぞさせて下さい。（と布を受取り、傘を少女

に持つてもらふ)ごなたが御出征になりますの？

少女　お兄さん

奥樣　そう、それはご苦勞樣ですね、いつお立ちになるの？

少女　しあさつて

奥樣　それは〳〵お大變ですね、ハイ出來ましたよ(と渡す)

少女　有り難うございます(傘を奥樣に渡し布を受取る)

老婆來る

少女　お願ひいたします

老婆　ハイ〳〵いくつでもしませう。こんなこゝでお役に立てるんならいくつでもさせて貰ひますよ、ほうら出來ました

少女　有り難うございます

さあ〳〵もう大部分出來上つたわ、あこもう少しだけご、これはお隣りのおばさんにして頂くことにして今日はこれで歸りませう。

――幕――

第二場　出征

背景＝街の通り

人物＝出征する人

見送り人―愛國婦人會員、國防婦人會の人、在鄕軍人、其他大人子供等多數

道具＝出征の襷(赤又は白)、日の丸小旗、祝出征の幟り、國防婦人會襷、大太鼓、ピアノ、ハーモニカ等

――幕あく――

樂隊の「日本陸軍」の演奏(肉聲合唱にてもよろし)につれて、出征を見送る行列が靜々と舞臺面へ進んで來る。出征する人の前後に二三人の人がかたまつて居り、續いて在鄕軍人、愛國、國防婦人會員、その他の多數の見送り人、之につゞく。この時樂隊の演奏が陽氣にならぬやう、壯重にひゞくやうに注意すること、又人物の動きを餘りつけるど、これまた陽氣な感じが出る故、人物の動きも上半身は動かさず、やはり壯嚴に見ゆるやう注意せねばならない。出征する人は白又は赤の襷に姓名を墨書してあるものを斜に肩にかけておく。見送りの人はそれ〴〵手に手に日の丸小旗又は祝出征の幟を持ち又愛國、國防婦人會の襷を肩に斜にかける。制服を着用させれば尙ほ結構であらう。以上の樣な順序、服裝、諸注意を持つて、舞臺面を二回位往復する。舞臺正面に出征する人が來た時、幼兒の方を向いて擧手の禮をすると子供等は一入感興が湧く。かくして

――幕――

第三場　驛出發の場

背景＝或る停車場のホーム

人物＝第二場の人物

道具＝第二場の人物がこゝに現れるので、見送り人の持つてゐる旗や着用の服裝等はそのまゝこゝへ現れる。

汽　車

――幕あく――

一行手に々々日の丸の旗及び幟りを持つてホームへ登つて來る。一同それ〴〵の場所についた頃司會者が前に進んで舞臺正面にぐつと出、只今の式の次第を申し述べる。

司會者　唯今山名鐵雄君をお見送りする式を簡單に行ひます。先づ始めに宮城遙拜、次は在鄕軍人支部會のご挨拶、次に山名君のご挨拶、萬歲、次は露營の歌、愛國行進曲の合唱、御出發、以上の順序であります。

司會者　一同氣を付け!!宮城遙拜、最敬禮(終ると)

司會者　次は在鄕軍人支部代表の御挨拶

一歩前に進み出で、しつかりと

在鄕軍人代表　町會及び在鄕軍人支部を代表して一寸御挨拶申し上げます。この度、山名鐵雄君が豐橋の聯隊に召集になられましたことは、山名君御一家の御名譽は勿論のこと、本町會の最も名譽とするところであります。山名君は、皆樣もご存じの通り、誠に男らしい方でありますから、御出征なされては、定めし大日本帝國軍人として、天皇陛下の御爲に、又御國の爲に立派なおはたらきをなさつて下さいますことゝ存じます。どうか私共に代り、遠くお出で下さつて、しつかりとやつて頂き度うございます。誠にご苦勞樣でございますが、何分ともよろしく御願申し上げます。併し戰地は氣候も內地とは變つて居り、何かと思ふやうにお出來になりませんことも多いことゝ存じますが、どうぞこの後は益々御身體を御大切になさつて下さいませ、それから又お留守宅のことは及ばずながら、私共みんなで、お引受け致しましたから、御心配なくどうぞしつかりやつて來て頂き度うございます。今日の御出征に當りまして、一言山名君の御壯途を御祝ひ申し上げる次第であります。

(一歩退く)

司會者　次は山名君の御挨拶

出征軍人の挨拶　今日はお忙しいところをこの樣に大勢の皆樣が御見送り下さいまして誠に有り難うございます。又唯今は町會及び在鄕軍人代表者の方からいろ〳〵勵ましのお言葉や、有り難いお言葉を頂戴いたしまして、私はどんなに心の中で固い〳〵決心を致したか知れません、私は今度の事變が起りました時から、一日も早く出征して、お國の爲に働らき度いと思つて居たのでございました。これからは一所懸命にお盡し致しまして、皆樣の御期待に添ふ樣に致す積りでございます。では皆さん行つてまゐります。家の事はどうぞよろしく御願ひ致します。

司會者　では皆さんで山名君の萬歲を三唱いたしませう。皆さん御唱和下さい。

山名鐵雄君萬歲!!

（一同萬歳!!を三回唱和す、旗をふりながら）

司會者　今度は露營の歌を皆さんで合唱して壯途を御送り致しませう。

一同露營の歌を合唱、又その場面の樣子により、君が代を先に、愛國行進曲などをつゞけて合唱するもよろしからん。旗などを打ちふり眞實の出征を見送る時のやうに。こゝへ汽車、ホームへ入り來る。出征軍人及び三四人これにつゞき汽車の中に乘り窗から頭を出す。こゝへ出征軍人の親兄弟、見送り人等交る々々挨拶に來る。やがて發車の合圖。一同萬歳を連呼旗をふつて別れる。汽車が動き出す。

――幕――

第四場　出動命令

背景＝曠　野

人物＝大隊長

下　土

兵卒多數

大隊長曠野に立つてゐるところ時々機關銃の音がきこえる

――幕あく――

（望遠鏡でしきりに向ふを見てゐる。やがて眼鏡を降し）

大隊長獨白　向ふの森の蔭の方に大部隊の敵が集結してゐるやうである。今の中にあの敵を殲滅しておかなければいけない。

（今の中に大隊を呼び集めて出動命令を下して置かう。堀井軍曹を呼ばう）

堀井軍曹!!　堀井軍曹!!

堀井軍曹（擧手の禮をしながら）

ハイ、堀井軍曹であります。

（ゆつくりと禮を受けながら）

大隊長　堀井軍曹、我が大隊の諸君をこゝへ集めて貰ひ度い。出動命令を下したいと思ふから。

堀井　ハイ、分りました。

（舞臺より消える）

（全員は二班に分れ大隊長の前に整列する）

大隊長　一同に命令を降す、我が大隊は、向ふの森の後ろに敵の大部隊が集結してゐるのをこれから迫擊殲滅せんとする。一同直ちに出動準備をせよ。終り。

（一同散つて舞臺より消える）

――幕――

第五場　戰　場

この場面は幕を開けず、すべて舞臺裏にて音や聲のみを發して現はす。機關銃、大砲、ピストル等の音を出して戰爭の感じを出す。激しく又時々遠のいたりと云ふ樣な要領で。

（かすかな併し力强い聲にて）

突貫!!!
ワァ！　ワァ！　ワァ！
大砲、機關銃、ピストルの音、煙り
突貫!!
ワァ！　ワァ！　ワァ！
（しばらくこれを繰り返し程よき頃）
一番乘り!!
占領!!
萬歳!!　萬歳!!
（レコードもこゝにて止む）

第六場　愛馬との憩ひの場

背景＝野原　又は無背景
人物＝兵卒
　　馬（石進號）
レコードの愛馬進軍歌を弱い音で奏でつゝ幕をあける。又はハンミング（口をつぐんでうなるやうに歌ふこと）にて幕をあける。兵卒と馬が舞臺中央に現はれ會話が始まらうとする時は音樂をやめる。馬のたづなを取りつゝ舞臺正面に來る。そして馬に向かつて、頭を撫でながら
兵士　こーれ、栗毛よ、疲れたらう。國を出てから今日で幾日になるかなあ！　お前は隨分よく働いて呉れたね、お前の勇ましい働きで俺達が一番乘りをしたこともあつたね、それから敵を五六人も切りまくつたこともあつたなあ、あの時はお前はこてもよく、くるくる動き廻つたよ、お蔭で俺達のまはりに居た敵は、片つ端から切れたのさ、ところで、さつき軍曹殿がお前の家から來たのだと言つて手紙を持つて來て下さつたよ。いつしよに讀まうね、いゝか
（ゆつくりと、言つてきかすやうに。以下は飼主よりの愛馬への手紙）
石進號よ、お前と岩見澤の驛で別れてからは、毎日の樣にお前の事を思つてゐるよ。お前が丈夫で一人前の軍馬となるように祈つてゐますよ、私等、家内の者もみんな丈夫で、家の仕事を一所懸命にやつてゐますから安心なさい。お前といつしよに二年以上も、毎日、雨の降る日も風の吹く日も暮して來たが、今年はお前も五歳になり力も強くなり澤山の田や畑をたがやして呉れたつたね、そのおかげで、今年は今までにない位、作物がよくされたので、みんな大悦びをしてゐますよ。たゞお前に新しく出來たお米を食はせないで別れたことが殘念で殘念で、毎日寫眞を出しては眺めて殘念がつてゐます。お前の足はあまり丈夫でなかつたので、心配してゐますがよくおつとめが出來てゐますか、どうか充分氣をつけて皆さんに可愛がられるやうにして下さい。北海道は雪が降つて

寒くなりました。何分にもお前の行つてゐる所は氣候の違ふ所ですから、身體に氣をつけて一生懸命おつとめして下さい。お前がこつちにゐる時村の共進會で取つた一等賞は家の寶として傳へます。それでは左樣なら

石進號殿　　益本正雄

―幕―

人形、道具の作り方

人形の作り方、と言ふ見出しを掲げては見ましたものゝ、暫く新しく人形作りをしないでゐた私には、この度の人形芝居に用ゐた人形の作り方に就て扨て何と書いていゝものかとまごつきました。人形の流用と言ふことは便利なやうでも、使用後その都度元通りに整理しておけば何の差支もないのでせうが、子供等に荒されるまゝに置かれたり、次々に起つて來る子供達への急がしい用事の爲に遂に、あたふたとしまつてしまふのが常ですので、今度使はふとする時はあれも無しこれも見えずと云つた始末で、大部まごついて了ふのがならはしになつてしまつて居るのです。一つ一つのげ題に就て、人形も背景も道具もみんな一通り完全に揃へて置いて、いつでもそれを出せるやうにして置くのが申すまでもなく一番よいのですが、今日の始末、明日の準備と、考へれば果しなく忙しい幼稚園の明け暮れでは、この人形を今度のお芝居のあの人物に流用すれば丁度よいと云ふことがはつきり分つて居るのに、それを又作ることも、又それと同じ人形を又買求めることも一寸六ケ敷くなつてしまふのです。で、遂ひ流用と云ふことになり、それの弊害には少なからず困つて居ながらも今だにその流用と云ふことから抜け切らないで居る私です。でこの脚本を作りましても新しく人形を作らないで、前々から幼稚園にあつたものを流用してしまつたのでした。

私共が今までしてゐた人形の作り方は大體四種ぐらゐあるやうに思はれます。

一は、古い小箱を利用(厚紙でこしらへる)してごく粗朴な人形をこしらへること、二は布にて作ること、三は新聞紙とふのり(最近の幼稚園界では新聞粘土と稱してゐる)と交ぜ合はせて作ること、四は木に彫ること等でありますが、これ等は例へば、古箱利用のものは作り易い、印象的だなどゝ云ふ長所はあるが、破れ易いと云ふ短所を有し、木彫りのものは印象的でしかも破れにくゝよろしいが、仲々、材料も揃ひ難く技巧も要ると云ふわけになり、布製のものは破れにくいが印象的でなく又作ることに仲々工夫がいるし、新聞粘土のものは、破れにくいし輕いしと云ふ長所は持つてゐるが、形、色彩に技巧を要し又印象的でないと云ふやうの場合もあり、それ〴〵長短相半ばして、どの作り方にとも決め難い場合があります。

この度は思ひついたのがごく七日直前であり、時日もなく間に合はなかつたのでもありましたが、前々からあつたものを流用したわけでした。次に各場に要した人形や道具の作り方に就て簡單に觸れて見ませう。背景については申すこともないやうに思ひます。

第一場

人物（少女、女學生、奥樣、老婆、その他の人）　第一場に出て來るぐらゐの人形はどちらの幼稚園にもあるのではないでせうか、若し無かつたら如何樣にでもして（前の作り方を指す）、少女は少女らしく、女學生は女學生らしい扮裝の人形を……とそれぞれの人物が作れると思ひますから、こゝはこれだけにして止めておきます。

道具　千人針の布や絲や針を凡そ實物大ぐらゐのものがよい。人形に釣り合ふやうな小さいのは印象的でないと思ひます。七匹の小山羊の際の鋏は實物大のを用ゐてぐつと印象的なものにしたのでしたが、こゝの千人針布もあの時の心持と同じ心持で大きいのをと思ひます。

第二場

人物（出征軍人、見送り人）　出征軍人は前の爆彈三勇士（木彫り）の一人を流用。これに出征軍人が肩から斜めにかけられるあの襷をかけさせました。出征軍人の何某誰と墨書して。見送り人は多い程よろしいのですから、流用出來る丈けの人形は皆使ひ（人手がかけられるだけ）（愛國婦人會員、國防婦人會員はその襷を肩に、在郷軍人は前に作つてあつた軍人の人形を流用）、これだけでも寂しいものですから、あとは青年團員の隊伍を組んで行進してる繪や、小學生が、日の丸の小旗を振りながら行列してゐる丁度恰好の繪がありましたので、これ等を切り抜き更に厚紙で裏打ちをして板の棒に釘づけにして紙芝居式に舞臺に出して用ゐました。

道具　出征軍人の襷、國防婦人會、愛國婦人會の襷、日の丸の旗、祝出征の幟り等は紙へ、布へそれ〴〵ごくあたりまへに作りました。この場面で樂隊を出しましたので、大太鼓やピアノ、ハーモニカ等を用ゐましたが、肉聲で結構です。私共の場合は、次の驛出發の場や最後の愛馬の場に肉聲を用ゐましたので、それとのコントラストの上からこゝに樂隊を用ゐて見たゞけです。奏して見て、樂隊は壯重でいゝと思ひました。尤もこゝの樂隊は派手に又は華やかなものにならぬやう、壯重であるやうにと心掛けたのですが。

第三場

こゝの人物も道具も殆んど第二場そのまゝです。汽車は、厚紙に、釣合より大きい汽車を描き彩色して切り抜きました。一つの窓をあけて置いて、こゝから出征軍人の頭を出させましたところ、子供達はやんやと喜びました。

第四場

こゝの大隊長も下士も、前に拵らへた木彫りの軍人を流用いたしました。兵卒多數は、平板又は厚紙に、兵隊さんの繪を描いて切り抜いたものを板に立てたものを用ひました。これに合せて、よく場末の玩具屋さんで賣つてゐるやうな菱形の組木を擴げると、一瞬にしてずらりと兵隊さんの並ぶやうなものも合はせ用ひました。澤山の兵隊さんの整列したのを見せることは子供のよろこぶことですから。

第五場

こゝの場面では目に見えるものはないわけです。蔭で扱ふ大砲の音には、大太鼓の張りをぐつと弛めてドンと底力ありげに打つ

た音を擬音として用ゐ、紙の袋に空氣を入れて破るのも大砲に似た音が出ますので時々用ゐました。機關銃には竹で拵へた、それこそ十錢玩具の機關銃を用ゐましたが、これは破れる心配もなしごく簡略に音が出せます。併しほんとうの機關銃よりは少々明朗過ぎる音が出ます。これと一緒に、やはり子供の玩具ですが、稍〻高級な機關銃(引手を引いてゐる中タタタ・・・となるもの)も合せて用ゐました)ピストル、これも下町や場末の玩具屋にあるピストルを求め、やはり玩具屋で賣つてゐる藥品を挾んで引金を引きますと、眞のピストルの樣に煙も出れば、火も出る仕掛のピストルを用ゐました。この他レコード使用。

第六場

兵卒は前述の通り。馬は厚紙に馬の繪を描いて切り拔きました。手綱をつけて、それを引くと頭が動くやうにする爲に、頸と胴の所は鋏で止めました。

反省と演出上の注意

この脚本は過ぐる七月七日、事變勃發第二週年目の記念日に本園の幼兒にして見せたものでございます。

この人形芝居は相當の人手を要しますが、本園では五人の保姆で演出いたしました。人手の不足なところでは無理かしらとも考へて見ましたが、又工夫のしやうでは出來ないことでもないと思ひます。私共もそういふ所(第二場出征行列の場面など、又第三場驛出發の場面など)は紙芝居式に厚紙に繪を描いて又は適當な繪がある時には切り拔いて使つて見ました。何と言つても一つ一つの人形が動くのが、見てゐて一番面白いと思ひますが、中に繪の交るのも惡くはありません。何うにか工夫されてかやうなお芝居も子供等に見せて欲しいと思ひます。子供達は大變よろこんでくれました。そして一番おしまひに、私達がおいしいお菓子を食べたあと「あゝおいしかつた」と嘆聲を發しますが、あれに似た「あゝ面白かつた!!」と云ふ嘆聲を洩らしてくれました。この嘆聲をきいた時に凡ては報ひられたと云ふ感じが致しました。こんなに喜んでくれたのかと、こちらも非常に嬉しく思ひました。

脚本構成上、第二場と第三場とは重複してゐるやうに思はれます。初めは第二場に相當するところは舞臺裏で扱ひ、「第二場　驛出發」としたのでした。ところが、軍隊が壯重に響きますと、驛へ行く見送りの行列を舞臺裏で扱ふのが惜しくなり、舞臺へ現はして見ましたところが子供はこゝが大變に面白がつて呉れました。殊に出征軍人が舞臺正面へ來た時に幼兒の方を向いて擧手の禮をするあたりは子供はやんやと悅んで呉れました。こゝで注意すべきは、樂隊も行列の際の人物の動きも、壯重にして浮はついて居らぬやう。それには大太鼓、ハーモニカ、ピアノ等のメロディーはごく弱い音に。人物は身體を動かさないで靜々と進む樣にすると浮はつかず壯重に見えます。

第三場の汽車の窓から出征軍人が顏を出したところは、幼兒の心情の機微に觸れたと見えて大喝采を拍したのでした。

第四場の出動命令　の場面は無くともいゝと思ひます。私の都合でこれを加へたのでした。前に爆彈三勇士の時に兵隊さんの澤山整列する場面がありましたので、これ等の人形があつたのです。

(六〇頁へ)

そして、鳩さんたちは、

「はい、こんごは、しつかり持つていらつしやいよ。」

「お手手を、はなしてはだめですよ。」

さう言つて、風船を一つづつ、小兎さんの手に持たせてくれました。

お母さん兎は、

「鳩さん、ごうも、ほんとにありがたう。」と、お禮を言ひました。

すると、小兎さんたちは、一つづつのお手々に風船を持つて、にこにこしながら、

「鳩さん、ごうも、ありがたう。」

「ごうも、鳩さん、ありがたう。」

さう言つて、お禮を言ひました。

まあまあ、ほんとに仲よし子兎さん。そして、ほんとにお利口な子兎さんですこと。

では、仲よし子兎さんのお話は、これでおしまひです。

× × ×

（六七頁より）

そして糊の乾かない中に、卵の殼の適當な色のついたのを其の上にのせ、指でつぶして付けます。卵の殼がかけるので餘分なのが出來ますから、それは箱をはたいてはらひ落しますと、糊の付いた所にだけ、卵の殼で繪が出來ます。箱の上に紐をつけて下げますと、卵の殼の艶と、モザイク式の面白さがあつて、中々興味ある物になります。

（八六頁より）

この人形の整列する有樣を見せたかつたので無理にこの場面をつけ加へた形なのです。無くともいゝと思ひます。

第五場

戰場の場面を音で現はして見ました。悽絶な場面を見せることなく、見てゐていゝものださうでした。

第六場

こゝはしんみりした場面です。子供の樣子によつては、しんみりと見て貰へない場合もあります。情味豐かな懷古話をよく聞いて貰ひ度いと思ひます。それには、この場面が冗漫に過ぎぬやうに注意することが大事です。